



◆311号線から須野に下
ってくると薄暗い木のト
ンネルが現れます
そこを通り抜けると別世
界が広がっています



◆神須川

◆須野川には、石菖が群生しています、
また年中エビ捕りができます
川に降りる階段も、須野川に架かってい
る橋も趣ある石造りですよ



◆めずらしい、
玉石の石垣



◆庚申さんから後ろを振り返ると
熊野灘、神須の鼻まで見渡せます
須野は磯釣り天国ですから、釣り客
もたくさん来ます。釣りのポイント
は隊長に聞いてね♪



◆庚申さんのそばには大き
なヤブ椿の木があります
須野の子供たちは椿の実
で笛を作って遊びました



◆ひらたかの瀧は須野で一番大きい瀧です、海に流
れ落ちる姿はダイナミックで、他ではなかなか見る
ことができません 須野には他にも、ナカバの瀧、
ムカエの瀧もあります 場所は隊長に聞いてね♪

至 尾鷲(梶賀)

50m

◆神須川のすぐ上流は、
ドンボという天然の深み
があり子供らの遊び場で
した

◆永命寺は曹洞宗のお
寺です、豊川稲荷の例大
祭は11月22日

◆お墓にある地藏堂
は石造りですよ

ダイビング
小屋

◆荒坂小学校
須野分校址

◆十二社神社
(目の神様)
例大祭 1月 28日
餅ほりもあるよ♪

◆寄木神社は、流木がご神
体です(須野の氏神様)
戎さんが近くに祀られてい
ます

◆ひらたかにあるタイ
ドプールは子供でも背
が届く深さです。
満ち潮のときに入り込
んだ魚がいっぱい見ら
れますよ♪今年の夏
はシュノーケリングに
挑戦だ!

◆須野の海はとて
も澄んでいて透明
度が高く、しかも
藻場が多いので
魚も産卵に多く訪
れます

◆ダイバーにも大人
気のスポットです

ひらたかの瀧 タイドプール

至 桶ヶ崎

ひみつ基地 須野を歩いてみよう! 須野まるごと探検MAP

秘密基地探検隊長:濱田博文 絵と写真と文:濱田直美
発行:平成25年2月28日初版 熊野市須野町 79 番地

須野の歳時記

- 1月 正月・お寺のご祈祷・七草粥・十二社神社例大祭
- 2月 初午・粉はたき・節分(鬼の目つき)
- 3月 お彼岸・ぼたもち・ひじき採り・山菜採り
- 4月 花祭り・甘茶・ひじき採り・山菜採り
- 5月 天草採り・八朔甘夏採り
- 6月 天草採り・トコロテン作り
- 7月 天草採り・七夕・味噌づくり・海開き・梅雨明け十日
- 8月 お盆・精霊流し
- 9月 お彼岸・おはぎ・菊の節句
- 10月
- 11月 戌のご餅(いんのこもち)
- 12月 餅つき・正月準備・幟立・お墓の飾りつけ・宮籠り
- 年中 庚申の日お参り

01 【天狗の話】てんぐのはなし

昔々、曾根の城に向かっていた濱田惣兵衛(はまたそうべい)が曾根道で天狗に出くわしました。天狗は惣兵衛に向かって、羽を広げて「通さん」と言いました。惣兵衛は、天狗と立ち合いの末、羽を切り落としてしまいました。その後、天狗は惣兵衛の弟が須野のオトで釣りをしているところに現れ、「兄には勝てぬが、ぬしには勝てる」と仕返しされました。しかし、その時近くにいた人たちに助けられ命からがら逃げ帰ってきました。天狗の羽は、伊勢湾台風で流されるまで、濱田惣兵衛の家に代々伝えられていたそうです。

02 【伊勢湾台風】いせわんたいふう

伊勢湾台風が襲う前の須野は、何本もの松の大木が昔の堤防のところに生えてそれは美しい浜だったそうです。堤防のすぐ裏に、「檜の木原」というウバメガシの林がありました。伊勢湾台風によってそれらがみんな無くなりました。松の大木は、小学校の校庭に根こそぎすべて流され、堤防もなくなり、見る影もなくなりました。区ごと移転するか、もっと大きな堤防を建てるかという話し合いの中で、須野の住民たちは須野に残ることを選択しました。その後、今の堤防ができました。伊勢湾台風が来る前の昔の、須野の浜を知っている人たちは、口をそろえて「きれいな浜やった」と残念がっています。

03 【彦四郎さんの話】ひこしろうさんののはなし

八丈島の青島が噴火して島民が避難した船が難破して須野に流れ着きました。その中の、彦四郎さんという人が病で倒れ「八丈へ帰りたい」と言いつつ亡くなりました。須野の住民は、彦四郎さんを手厚く看護したのち、お墓を作りねんごろにおまつりしました。今でも須野の墓地の真ん中に自然石でできた彦四郎さんのお墓があります。

04 【ナカバの石】なかばのいし

ナカバの柱状節理(ちゅうじょうせつり)の石が切り出されて、名古屋の市電の敷石となりました。須野のまちなかのあちらこちらにも今では貴重な立派な石が何気なくたくさん置かれています。

05 【日本カワウソ】にほんかわうそ

須野の日本カワウソは川だけでなく海でも魚を捕っていたそうです。(カワウソでなくてウミウソですね。)濱田隊長のおばあさんは、カワウソのことを「カワソー」と呼んでいましたが、伊勢湾台風以後姿を見なくなったそうです。

06 【大工の啓吉さん】たいくのかいきちさん

須野の啓吉さんは、腕の良いことで有名な大工でした。須野の家はもちろん、戸板やら、机、など細かいものも今でもたくさん残っています。須野分校に残っている、無垢の机や椅子、卓球台なども啓吉さんの作品です。机は作られた当時、こんな贅沢な机を使っている子供はいないと言われました。

07 【石の筧】いしのかけい

湧水の豊富な須野ですが、昔は、田んぼに水を引くために石で作った筧を使いました。今では、あちこちに埋もれかけているものが少し見え隠れしていますが、石を水路にするなんていかにも須野らしいですね。

08 【十二社神社】じゅうにしやしんじや

目の神様として有名な十二社神社には、以前は神戸からもお参りに来る人がいるほどでした。今では、1月28日の例大祭の日が一年で一番須野が賑わう日です。

09 【遠見番所】とおみばんしょ

須野には、狼煙場(のろしば)となる遠見番所がありました。今はその址を残すのみですが、狼煙場に番所があったのは熊野界限では須野だけでした。狼煙を上げる為に「オオカミの糞」「松や二」などを常備していました。中国の故事によるとオオカミの糞を使うと、狼煙をまっすぐにあげることができるとされていました。遠くまで届かせるために真直ぐ上げる必要があったわけです。須野の濱田長衛門が二人扶持で勤め初め、沖を行く船を見張りました。あらかじめ、絵師の描いたオランダ船、琉球船、ロシア船、唐船の絵をもらってそれらの船が須野の沖を通ったら狼煙を上げたそうです。

10 【金馬道】きんまみち

須野の山の中には金馬道が残っています。長年にわたって木材を運んだ道はいまだに草も生えずに道として山中でひっそりとその名残をとどめています。

11 【石工 井口要次さん】いしく いぐちようじさん

須野の名石工井口要次さんは、焼酎を飲むほどに仕事がかどる不思議な人で、いつも焼酎を飲みながら民謡を唄いながら石を割っては積みました。富山から築屋さんが来ると、唄好きの要次さんの家に泊まり、二人で民謡を唄っていました。そして、要次さんは「この築屋は、ドンガラ(からだ)こまかいけど唄はうまい」と変なほめ方をしていたそうです。

12 【樟脳づくり】しょうのうづくり

今の堤防の海側(築の崩)(かまのくす)で樟脳づくりが行われていました。この場所も伊勢湾台風で流されてしまいました。(※樟脳は洋服ダンスに入れる防虫剤)

13 【戎さん】えべっさん

昔、海から戎さんが須野の浜に流れ着いたそうです。その戎さんは、ひらたかへ行く途中の山の上の方に祀られていましたがここも伊勢湾台風で流されて、今は寄木神社の入り口近くに祀られています。